

旧スタック内面の分離と NR 判定後の処置

1. 放射性物質の測定結果に基づいた対応方針

地上部分の旧スタック、および旧スタックに通じていた煙道の一部（以下、併せて旧スタックと記す）は14体に分割されており、それぞれについて KUR 炉室からの排気が通過した旧スタックの内面約 1 mmの部分に放射性物質による汚染がないこと、および放射性物質による汚染の可能性が高い分割部（煙道の一部や旧スタック下部）を含む 3 つの分割部については内面から約 5 mmの深さのコンクリートまで放射性物質による汚染がないことを確認した(資料2)。この結果を元に、旧スタックの内面約 1 mmを削り、削ったコンクリートを放射性廃棄物としてドラム缶に詰めて廃棄物保管倉庫に保管するとともに、内面を削った後の旧スタックについては NR と判断できるとした今後の方針も含め下記する。

2. スタック内面を削る方法

現在の保管場所(一時管理区域)近くの区域（(図 1)）を一時管理区域に設定し、組み立て式のグリーンハウス(大きさ約 4m×4m×4.5m(高さ))を設置する。具体的なグリーンハウスの構造は、鋼材によってフレームを組み立て、内側に補強入りビニール（現在素材を検討中）によって旧スタックを覆う密閉空間(グリーンルーム)を作る。分割された旧スタックを1体ずつグリーンルーム内に移送し、十分な粉塵防護対策を施した作業員が内面をグラインダー（粉塵吸い込み式）で1mm程度を削り取る。作業に際しては、グリーンルーム内を附設された適切なフィルター付きの排風機によって換気することで粉塵がグリーンルーム外に漏れいしないようにし、併せて適切な作業環境を整える。

なお、使用済みのフィルターは放射性廃棄物として保管し、またすべての作業が終了した後、グリーンルーム内を清掃し、収集した粉塵も放射性廃棄物として保管する。

3. NR と判断した部位の処置

内面を削り取った旧スタックは研究所内の非管理区域（図1）に運搬し、その場所で適切な大きさに粉砕した上で、同場所に適切に保管する（今のところ所外に持ち出すことは考えていない）。なお、上記2の内面を削る作業と運搬・粉砕作業は並行して効率的に実施することを計画している。

4. NR と判断した部位に対する念のための測定

3. において NR と判断された 14 分割の旧スタックからそれぞれサンプルを採取し、念のための測定を行う。現在、サンプル採取は 3. に示した非管理区域で実施する予定である(案)

5. 現在の進捗状況

組み立て式グリーンハウスの購入や2. 及び3. で示した作業の委託に向け、仕様書の確定作業を進めるとともに、それぞれの事務的手続きを契約管理関係部署と協議中である。今後組み立て式グリーンハウスを発注し、年内には納品を予定している。なお、組み立てについては、作業を実施する直前に行う予定で、作業は来年1月～2月頃を予定している。上記2. 及び3. の全ての作業は3～4週間程度の予定であり、年度内にすべての作業を終了させることができると考えている。

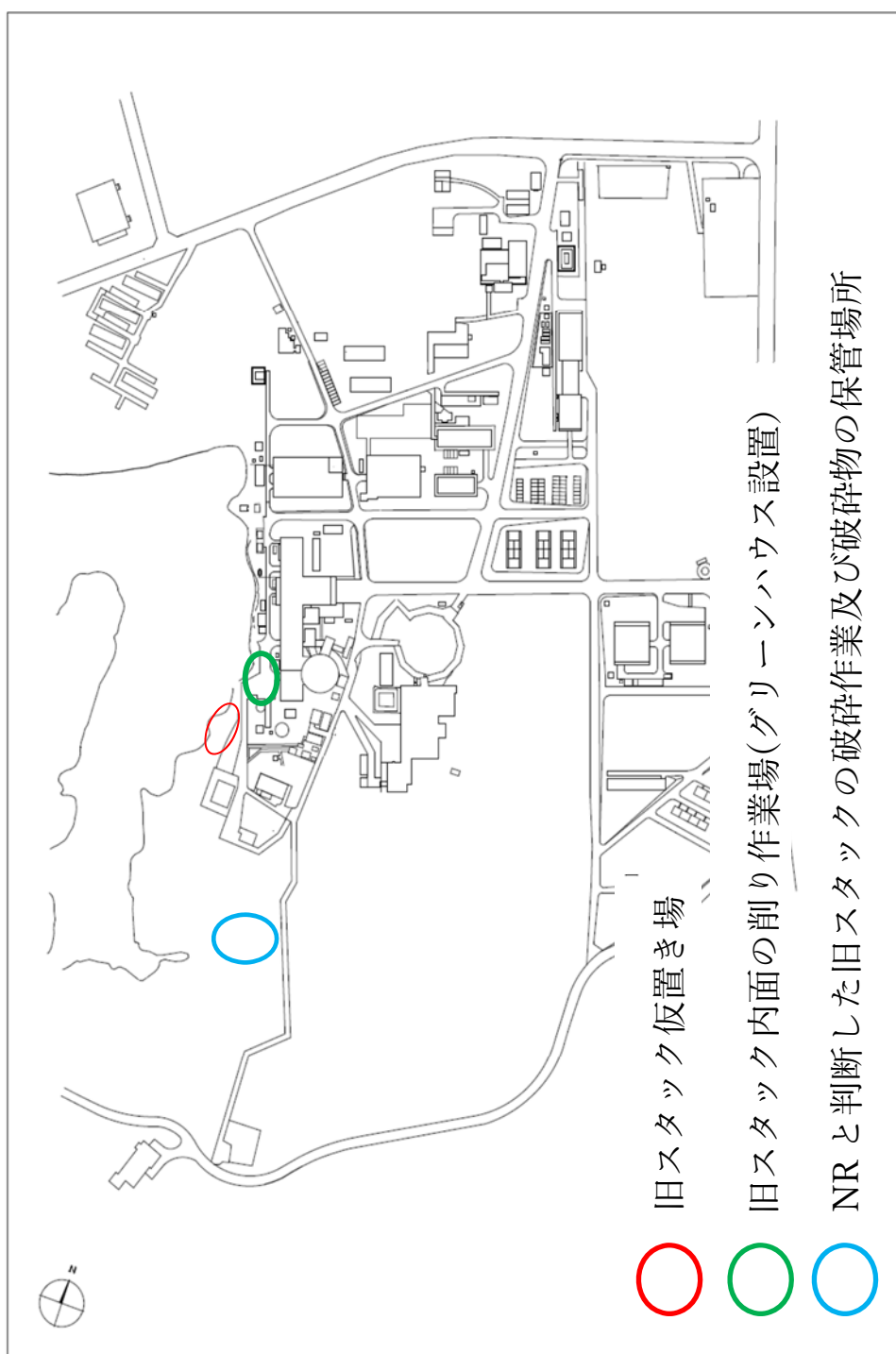


図1 旧ストックをNRとして管理するための作業に係る実施場所